

京都市はぐくみプラン（京都市子ども・若者総合計画）の 策定に当たって



京都市長 門川 大作

「まちづくりは人づくりから」。

今から150年前、明治維新による都市衰退の危機の中、日本初の小学校を創設した京都の町衆たちの思いです。

以来、京都の人たちはその思いを受け継ぎ、子ども・若者を社会全体で温かく包み、地域で大切に育ててきました。こうして培われてきた京都ならではの「はぐくみ文化」の精神は、市民の皆様の熱心な議論を経て掲げられた「子どもを共に育む京都市民憲章（愛称：京都市はぐくみ憲章）」の中にもしっかりと刻まれています。

家族規模の縮小や地域のつながりの希薄化などによって、子どもや若者、その家庭が抱える課題やニーズは多様化しています。そんな中、京都が活気と魅力あふれるまちであり続けるためには、この「はぐくみ文化」の更なる深化が必要です。

この度策定した「京都市はぐくみプラン（京都市子ども・若者総合計画）」は、京都が誇る「はぐくみ文化」の力を遺憾なく発揮し、社会の宝である子ども・若者を健やかで心豊かに育てていくための羅針盤となるものです。

この計画の策定に当たり多大なる御支援をいただきました「京都市はぐくみ推進審議会」の委員及び特別委員の皆様をはじめ、各種調査や市民意見募集などを通じて、貴重な御意見・御提言をお寄せいただいたすべての皆様に、心から御礼申し上げます。

人は、一人一人かけがえのない存在です。あらゆる分野で「子ども・若者の最善の利益」が大切にされ、誰ひとり取り残されない社会を実現するためには、妊娠前から子ども、若者までの切れ目ない支援を行っていかねばなりません。

同時に、子どもや若者が社会の一員として自立していくためには、社会とつながり、試行錯誤の中でやりがいや楽しさを実感しながら、自らの力を伸ばしていく。そんな、青少年の自己成長を大切に支援する「ユースサービス」の考え方も重要です。

こうした理念を盛り込んだこの計画をもとに、本市ではこれからも市民の皆様と力を合わせ、京都の未来を担う子ども・若者の笑顔にあふれ、「京都で育ってよかった」、「京都で子育てをしたい」、「京都に住み続けたい」と思えるまちづくりをしっかりと進めてまいります。皆様の御理解、御協力をお願い申し上げます。